

令和7年度 東住吉中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

平均正答率は国語-2.3ポイント全国平均を下回っているが、数学は+2.7ポイントと全国平均を上回っている。

平均無回答率は国語+1.0ポイント、数学+2.3ポイントと全国平均を上回っており、平均正答率以上に大きな差となっており課題である。

【国語】知識及び技能に関する問題の正答率は全国平均を上回っており、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は+1.0ポイントとなっている。思考力、判断力、表現力等に関する問題の正答率は「話すこと・聞くこと」は全国平均を0.6ポイント上回ったが「書くこと」は-2.5ポイント「読むこと」においては-5.8ポイントとなっている。

【数学】正答率は「数と式」「図形」ではそれぞれ+6.6ポイント、+4.8ポイントと大きく上回っている。しかし、「関数」「データの活用」の領域ではそれぞれ全国平均を-0.3ポイント、-1.1ポイントとわずかながら下回っている。

【理科】全国と比較してIRTバンド5の割合が2.5ポイント上回っている。

【生徒質問紙】では、「学校に行くのは楽しいと思いますか(+3.5)」「将来の夢や目標を持っていますか(+1.1)」「国語の授業の内容はよく分かりますか(+10.7)」「数学の授業の内容はよく分かりますか(+11.9)」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較すると上回っている。

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか(-1.3)」「いじめる、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(-1.1)」「自分には、よいところがあると思いますか(-4.2)」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較すると下回っている。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

平均点はすべての教科で、大阪府平均、大阪市平均を上回っている。特に数学においては+6.7ポイントと大阪府平均を大きく上回っている。昨年度の2年生チャレンジテストの結果との比較においても、英語以外の4教科の平均点が大阪府との割合と比べて向上している。(国語:1.01→1.05、社会:1.04→1.06、数学:1.08→1.12、理科:1.12→1.14、英語:1.06→1.05)

平均無回答率は、国語、社会、英語では大阪府平均を上回っているが、数学、理科では大阪府平均を下回っている。大阪市平均と比較するとすべての教科において上回っており課題となっている。

アンケート結果においては、「わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている。」に対する肯定的な回答が大阪府平均を大きく上回っている(+4.1)。

○大阪市英語力調査(GTEC)

「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと」の平均スコアは、全て大阪市平均を下回っている。

CEFR A1レベル相当以上の中学3年生の割合は53.1%で昨年度3年生の59.9%を下回っている。

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

2年生では社会以外の教科において大阪府の平均点を上回っている。特に数学においては府の平均点を5点以上上回っており、1年生時との比較においても向上している。

1年生では5教科において大阪府および大阪市の平均点を上回っている。数学においては9.7点、理科においては5.5点、英語においては9.4点と大きく上回っている。

平均無回答率については、平均点の高い低いにかかわらず全体的に高い傾向にある。最後まであきらめずに取り組む意識の醸成が大切であるといえる。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、

上体起こし、長座体前屈、反復横とびは全国平均を上回っている。体力合計点は全国平均を0.9ポイント下回っている。

女子の50m走、立ち幅とび以外の種目は全国平均と同様又は上回っており、体力合計点も全国平均を4.1ポイントと大きく上回っている。

【今後に向けて】

生徒の「学び合い」を実現し、多くの教科において協働学習を取り入れるよう、継続して取り組む。

デジタル教科書やドリル等のICT機器を活用した教育活動を推進し、生徒の興味・関心と学力の向上につながる取組を実践する。

幅広い分野の本に触れ、多様な知識や価値観に出会うことで、基礎的・基本的な学力が定着できるよう、読書習慣を身に付けさせる取組を充実させる。

習熟度別少人数授業の実施や学校元気アップ推進事業を活用した放課後学習・長期休業中の学習会など、生徒が自主的に学ぶ機会を多く設け、学習環境を充実させる。

校内研修を持続発展させ、授業力の向上を図り、教科指導の研究を進めることによって、生徒の学力向上に結び付ける。

英語の授業において、ペアワーク・リーディング・ICT機器を活用し、「聞く」及び「話す」能力の向上を図る。セクション毎のQ&A及び3～4文の英作文の実施により、「書く」能力の底上げを図る。

種目の特性に応じたトレーニングを行い、ペア学習、グループ学習で、課題に応じた取組ができるよう、ワークシートを利用して、取組の振り返りを行う。